
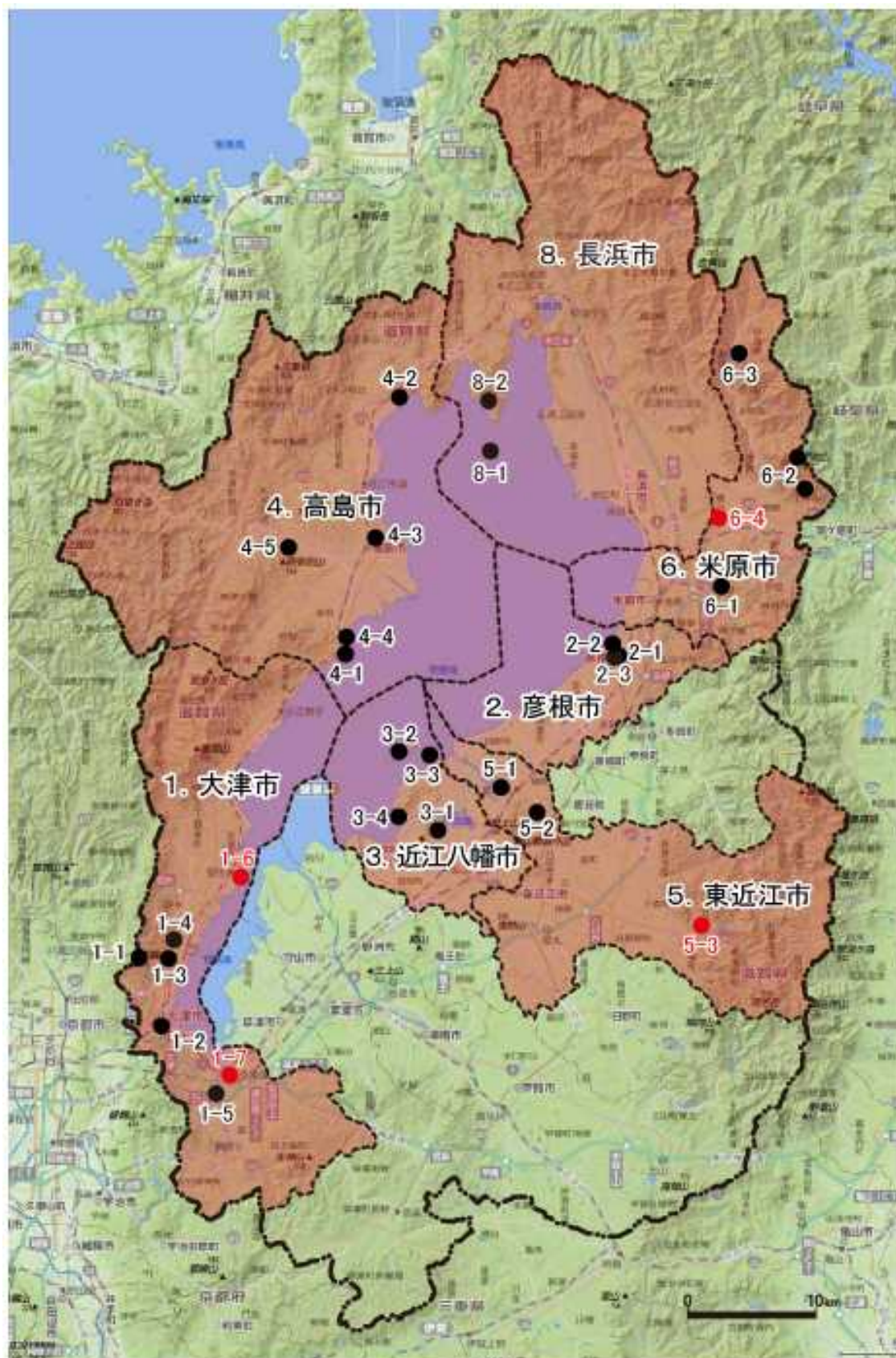


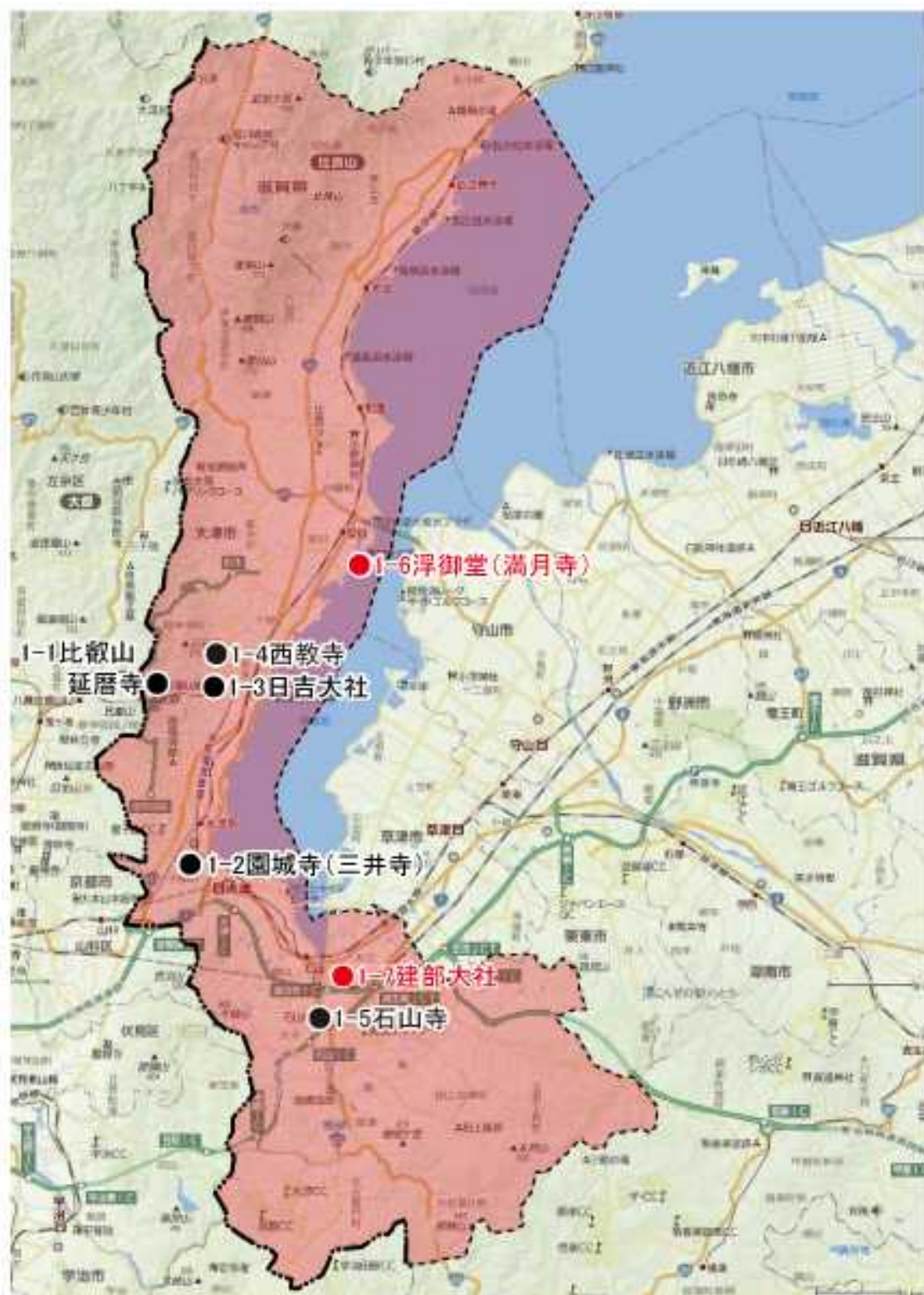
① 申請者	◎滋賀県、大津市、彦根市、近江八幡市、高島市、東近江市、米原市、長浜市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>「穢れを除き、病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに東方にあっては、瑠璃色に輝く「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきた。琵琶湖では、「水の浄土」を臨んで多くの寺社が建立され、今日も多くの人々を惹きつけている。また、くらしには、山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっている。湖辺の集落や湖中の島では、米と魚を活用した鮎ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれた。多くの生き物を育む水郷や水辺の景観は、芸術や庭園に取り上げられてきたが、近年では、水と人の営みが調和した文化的景観として、多くの現代人をひきつけている。ここには、日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されている。」</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>高島市新旭針江の水辺景観 カバタ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>近江八幡市 近江八幡の水郷</p> </div> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課記念物担当 参事 木戸雅寿、主幹 北村圭弘		
電 話	(077) 528-4674	FAX	(077) 528-4968
E-mail	ma07@pref.shiga.lg.jp		
住 所	滋賀県大津市京町四丁目一番一号		

市町村の位置図【滋賀県全域】



※ 7 伝統漁法と食文化は県内一円

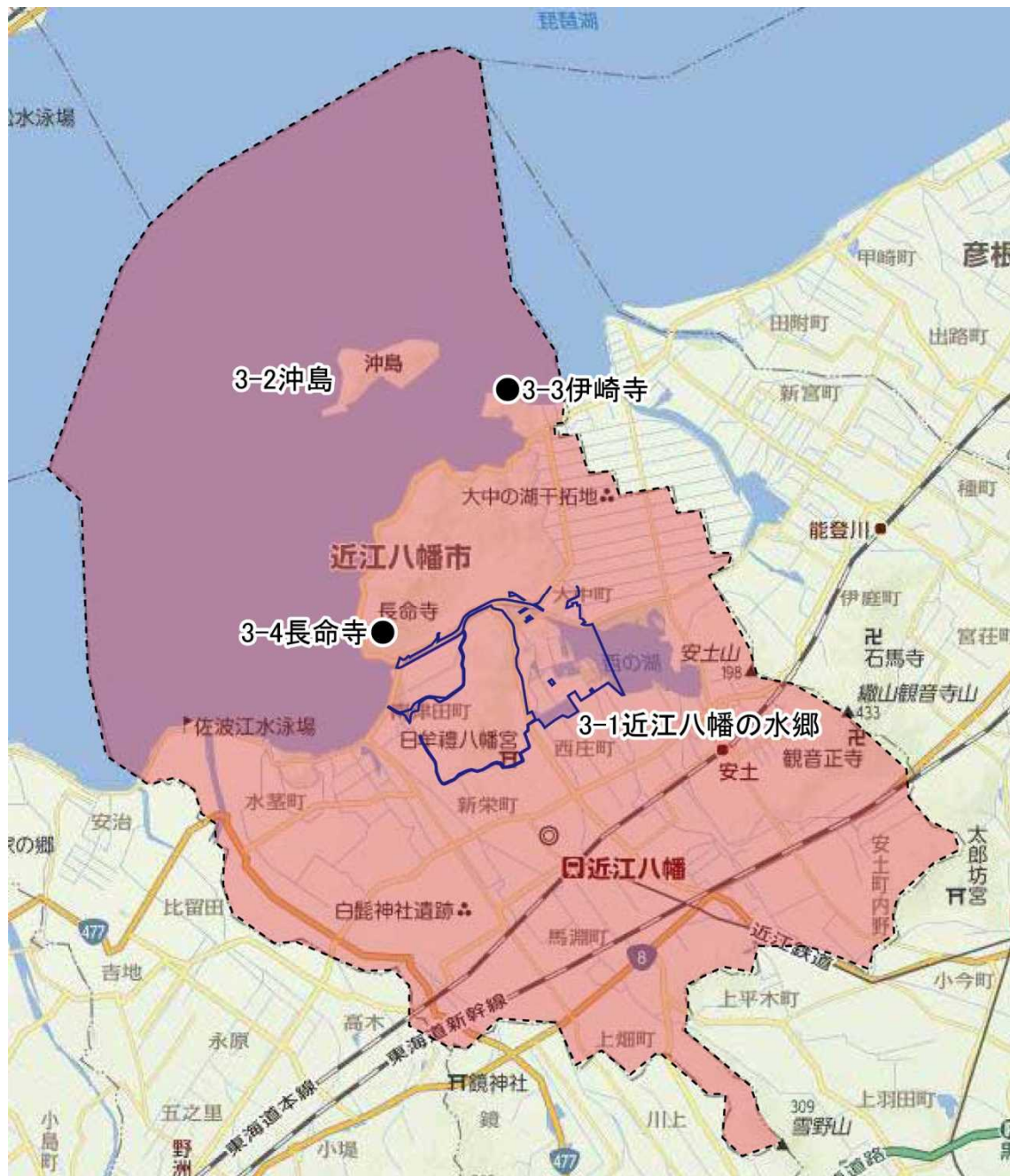
1. 大津市



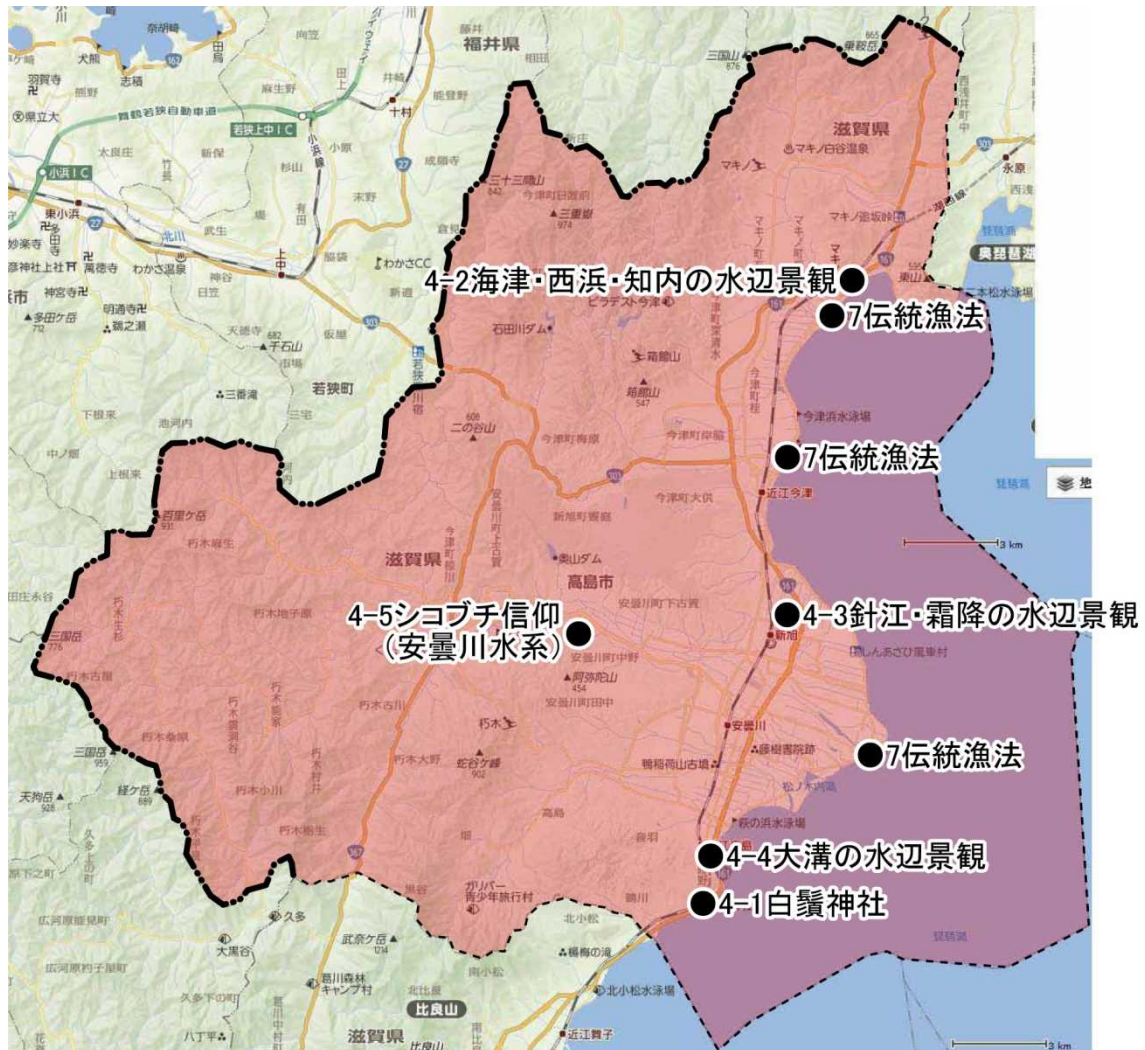
2. 彦根市



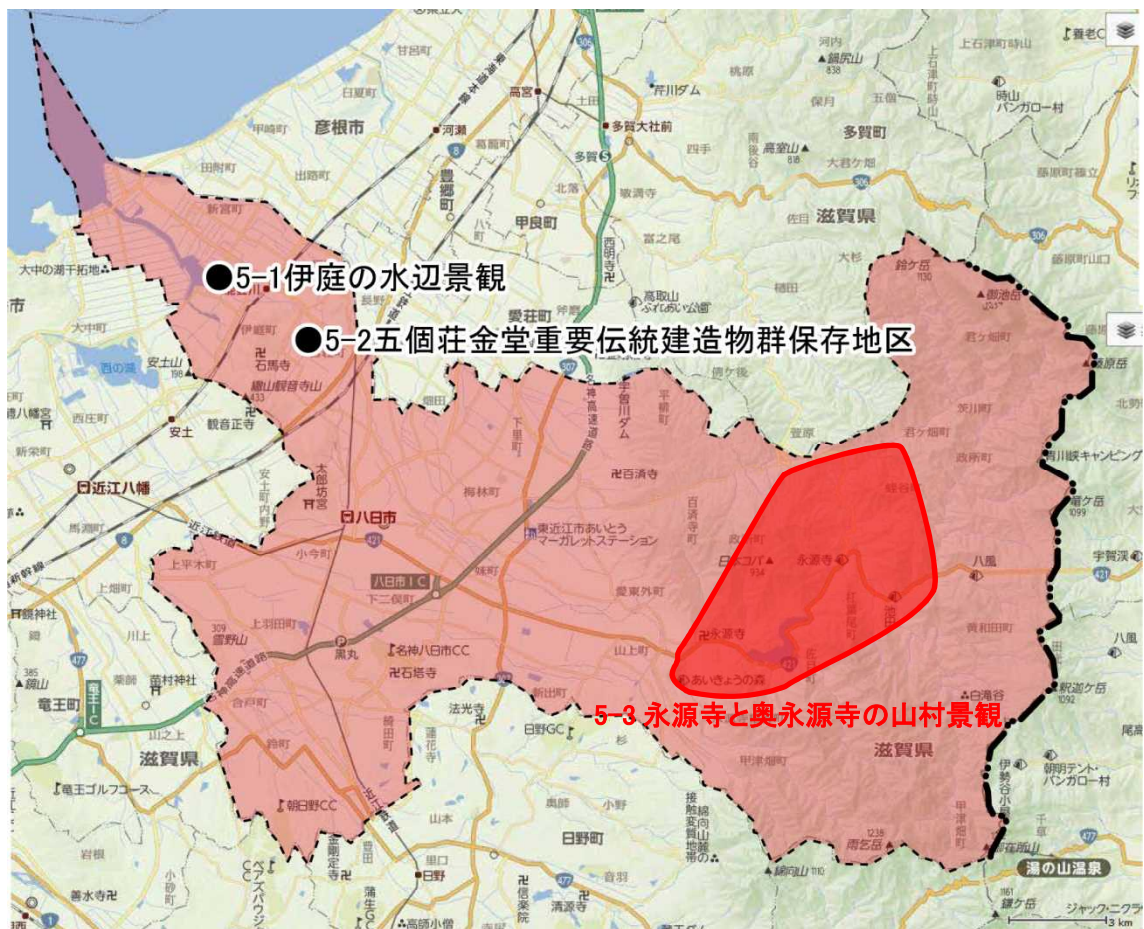
3. 近江八幡市



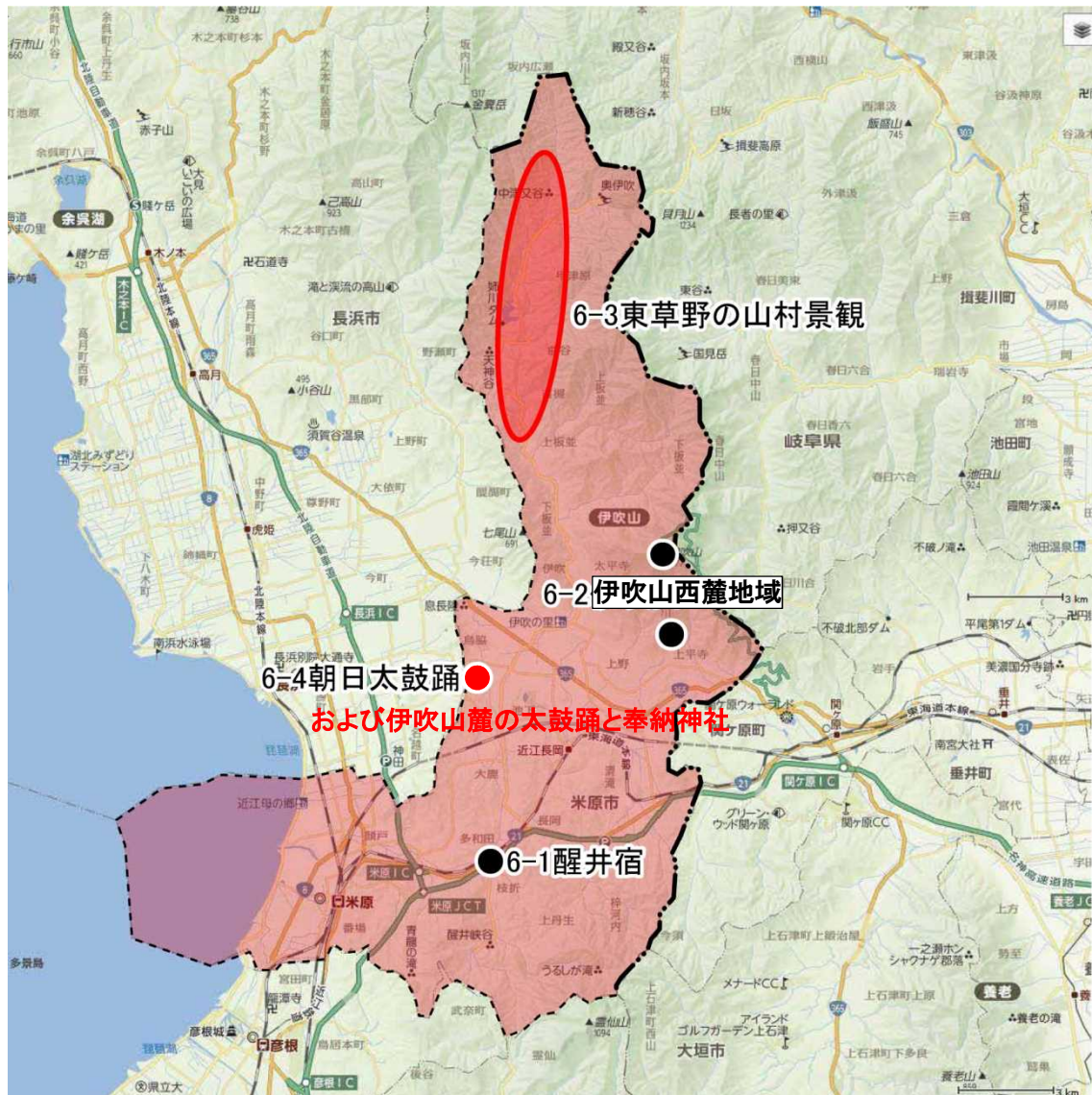
4. 高島市



5. 東近江市

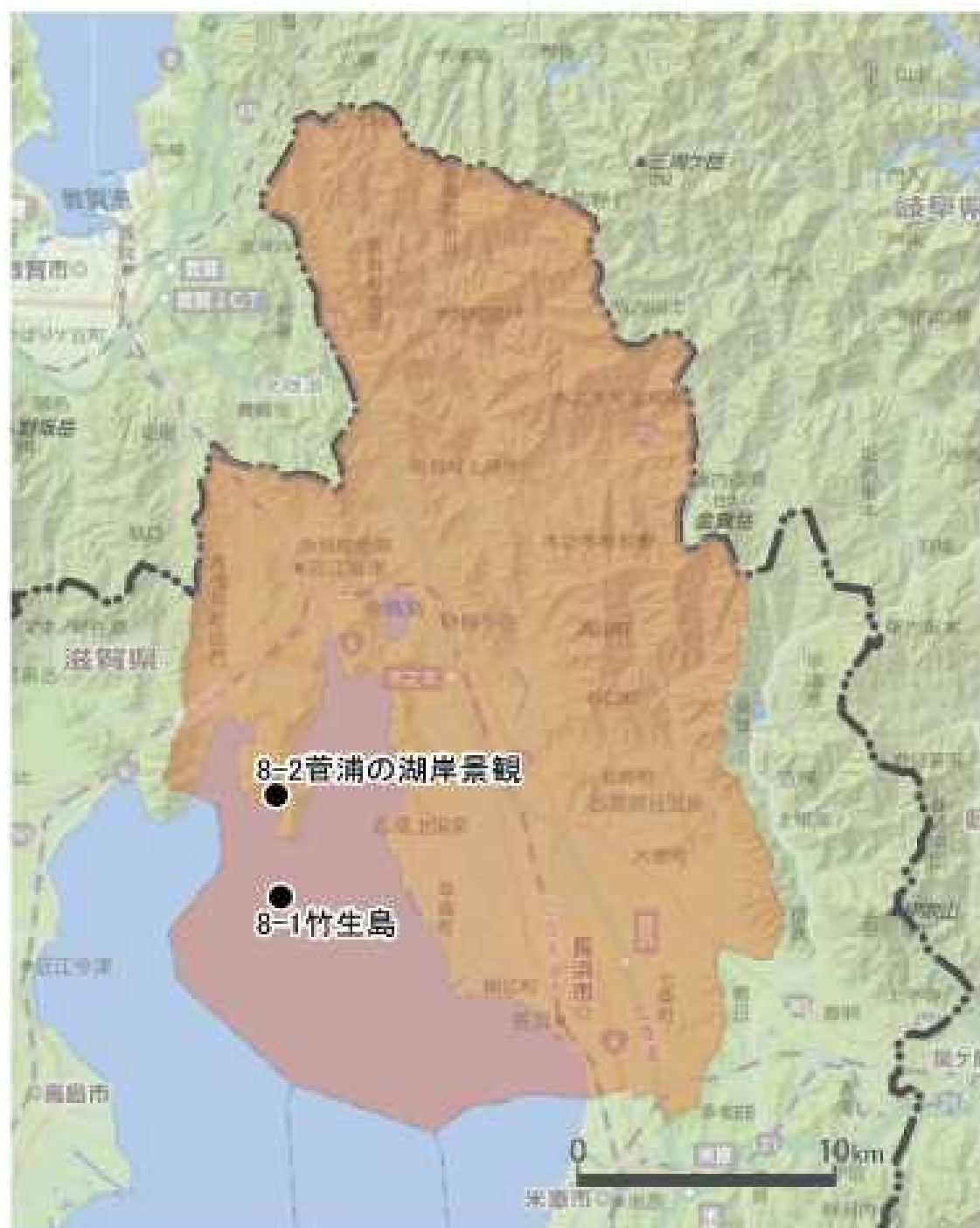


6. 米原市



7. 伝統漁法と食文化は琵琶湖一円

8. 長浜市



ストーリー

水は、日本人にとって単なる資源ではなく、精神に深くかかわる特別な存在である。人々は、水を敬い、水を巧みに生活の中に取り込むことで、日本ならではの「和のくらしや祈りの姿」を築いてきたのである。滋賀県は、近江盆地の中央に「琵琶湖」を有し、周辺の山麓に降った雨が河川をつたって流れ込む水の豊富な地域であり、和のくらしと祈りを映す「水の文化」が各地で生まれ育って、今日に伝わっている。

《水と暮らしの文化》

水は、人々のくらしに巧みに利用されている。琵琶湖の西部にある高島市や東近江市では、遠く離れた山麓から湧き出る水を、竹筒でつなぎ、要所・要所にサイフォンの原理を利用した溜め枡をつくり、各家に配分する古式水道が江戸時代に作られ、現在も多くの労力を費やして維持し利用されている。また、水源地や平地では、自噴する湧き水を「カバタ」とよばれる特徴的な洗い場（台所）を使って、飲み水用、炊事用、洗濯用に使い分け、最後は鯉を飼って残飯を処理させるという謙虚で豊かな水利用の知恵をみることができる。さらに、琵琶湖の西岸の集落では、琵琶湖の風波から集落を守るために築かれた石垣や、琵琶湖の中に設置された橋板で洗い物をする姿が見られ、街道沿いに残る建造物群とともに、この地域独自の景観を生み出している。



カバタで野菜を洗う

琵琶湖の周りには、かつては内湖が沢山あった。多くが干拓事業などで農地に変わったが、近江八幡市には現在残された最大の内湖「西の湖」があり、漁業やヨシ産業などが今も営まれ、生物と人が共生する中で、秋のヨシ刈りや早春のヨシ焼きなどにより景観の維持と再生が繰り返されている。また、近くの伊庭内湖に接する伊庭集落では、水路が集落内を縦横に巡り、内湖での漁労や水田への往復に舟が日常的に利用されていた時代を髣髴とさせる。各家には水路で水仕事をするために設けられた階段である「カワト」が多く残されている。奥琵琶の急峻な湖岸地形に形成された独自の集落構造を示す菅浦では、中世の「惣」に遡る強固な共同体によって維持されてきた水辺の暮らしが今も息づいている。また、琵琶湖や周辺の内湖に囲まれた環境により、城の堀や内湖が水上交通や城下町などへの物資の運搬に活用された。彦根城とその周辺には堀が船着場などの遺構が残されるなど、景観は現在にも引き継がれており、市民のくらしの景観の一部となっている。

水は、美しい水辺の景観で人々を癒すだけでなく、石山寺に参詣した紫式部が十五夜の月が琵琶湖に映える姿を見て「もののあわれ」を主題とする物語に着想したと伝わるように、琵琶湖と水が持つ神秘的な力を現す景観として、芸術的な空間としての景観として、心像を現す景観として、優れた芸術を生み出す材料にもなった。彦根市の湖岸に形作られた庭園では、湧水や湖水を巧みに操り、小島の岩間からの滝の仕立てや、湖面の変化を活かした州浜を取り込み、石組みと水とで抽象性の高い芸術空間が作りだされている。

《水と祈りの文化》

人々は、水の恵みに感謝の念を抱き、水の清らかさに精気が宿ると信じ、洪水や日照りをおそれ、水を神とうやまい祭事を行ってきた。



醒井のまちなみ

米原市では、清らかな水の湧き出る醒ヶ井宿に、ヤマトタケルが毒矢で負傷した熱を醒ましたとの伝説をもつ「居醒泉」（いざめのいずみ）がある。また、干ばつに弱い扇状地一帯では、各々の氏神社において雨乞いの太鼓踊りが今も行われている。高島市では、材木を安曇川に流し京都に運んだ筏乗り達を川の魔物から守るシゴブチ神社が川沿いに点々と建てられている。

大津市にある比叡山延暦寺は、平安初期に最澄が開いたが、その本尊は、仏教世界の東方にあって瑠璃色に輝く「水の浄土」（東方浄土）の教主である薬師如来とされた。比叡山から東方を見ると、眼下に瑠璃色に輝く広大な琵琶湖の全体が望まれ、人々は「近江の湖は海ならず、天台薬師の池ぞかし」（梁塵秘抄）と歌い、仏の理想郷と讃えた。そして「水の浄土」を取り巻いて、薬師如来像や観音菩薩像などを奉る寺院や神仏習合した神社が数多く建立され、今も病や禍からの救済を求める多くの人々の崇敬を集めている。



比叡山延暦寺根本中堂

霊峰・比叡山の山麓には、天台三総本山（比叡山延暦寺・三井寺・西教寺）や、全国三千社の末社をもつ山王総本宮などが鎮座し、歴代の天皇の産湯に供したと伝わる霊泉が祀られ、神輿が湖上に繰り出す祭祀が今に引き継がれている。また、高島市や近江八幡市、大津市の琵琶湖湖畔に造営された社寺では、湖中に建つ堂、朱の大鳥居や、湖岸に張り出す竿先から水に飛込む荒行や琵琶湖を模した庭園など水と祈りが結びついた独自の景観や行いを見ることができる。



伊崎寺

水神として浅井姫命を祀る竹生島は、観音と弁財天信仰の島として広く信仰を集めており、琵琶湖に浮かぶパワースポットの島として内外に知られ多くの人々が訪れている。

《水と食文化》

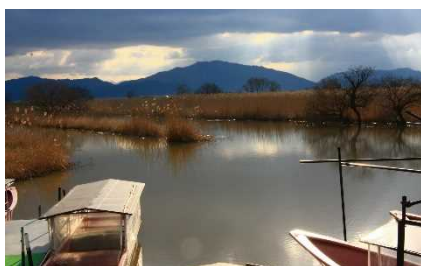
人々のくらしと祈りの姿を育んだ「水」は、地域ならではの独自の生業や食文化も育んできた。琵琶湖岸や川の河口では、春に接岸したコアユを生きたまま捕獲するため鳥の羽をつけた竿で網に追い込む「オイサデ漁」が風物詩になっている。河口に扇形に簾を張る「ヤナ」や湖岸に矢印型に網を張る「エリ」などの魚の習性を知り尽くした漁法は、独自の景観として琵琶湖の魅力の一つにもなっている。



湖岸で行われるオイサデ漁

また、琵琶湖の湖魚は人々の食を支え、伝統的な郷土食が伝承されてきた。琵琶湖の固有種であるイサザやホンモロコ、ビワマスなどを使った伝統料理は今も味わうことができる。「鮒ずし」をはじめとした湖魚のナレズシは、産卵期に大量に川を遡上した魚を1年以上保存する知恵の結晶であり、豊穡を願う祭りや伝統行事にも深く関わっている。

滋賀では、水を巧みに生活に活用するとともに、水を敬い、畏れ、水の浄土に救いと安らぎを求めてきた日本人の「水の文化」が脈々と息づき、今も持続し続けている。それは、白洲正子、井上靖、司馬遼太郎などを魅了した日本の原風景の一部である。水と人との関わりが遠くなってしまった現代日本にあって、「水の国」滋賀は、水との関わりと豊かな心情を回復できる貴重な場所である。



西の湖の水郷



エリ



ヤナ

「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の 所在地 (※4)
1-1	えんりやくじ 延暦寺	世界文化遺産 国史跡・国宝	和の祈りを映す琵琶湖。水の恵みあふれるこの世の楽園、理想郷と讃えて「天台薬師の池」に見立て、最澄は比叡山に延暦寺を建立した。根本薬師は国宝延暦寺根本中堂の内陣厨子に秘仏として安置され、不滅の法灯とともに、最澄の理想と信仰を伝え、「水の浄土・琵琶湖」を見守り続ける。	大津市
1-2	おんじょうじ 園城寺 (三井寺)	国宝 11 件 (金堂ほか) 重要文化財 50 件 (関伽井屋ほか)	天智・天武・持統の古代三帝の産湯に用いられたとされる霊泉(関伽井屋・重要文化財)が境内にあり、平安時代前期にこの水を智証大師が天台儀式の法水に用いられたことが、園城寺の別名である三井寺の名の由来となっている。平安時代後期以降、日本で最も歴史がある巡礼行である西国三十三所観音霊場の 14 番札所となり、室町時代中期には庶民による巡礼として定着し、堂舎の造営なども行われた。さらに西国薬師霊場・第四十八番札所(水観寺)として、水と深いかわりのある本尊薬師如来=水の神は、如来の棲まう極楽浄土への信仰として今も人々の尊崇を集めている。水と人々との深い信仰のかかわりがある寺院である。	大津市
1-3	ひよしたいしゃ 日吉大社	国宝 2 件・ 重要文化財 26 件	7 基の神輿が神社を出て町内を巡り、琵琶湖上へと進み、琵琶湖上では粟津御供と呼ばれる供物がお供えされる神輿渡御。 壮大な 7 基の神輿が琵琶湖を渡る様子は壮大な水のまつりである。	大津市

1-4	西教寺	国（建造物） 国（彫刻） 他	西教寺は、天台宗総本山延暦寺、天台寺門宗総本山園城寺とならんで、天台三総本山の一つに数えられ、琵琶湖を当方浄土の極楽の池、天台薬師の池に見る「水の浄土」信仰をあつめる寺院である。重要文化財客殿の山側には、琵琶湖の形を模した池泉がしつらえられており、その信仰の形が庭園という形で具現され、琵琶湖と祈りが結びついた独自の景観を生み出し、訪れる人々に祈りの姿を伝えている。	大津市
1-5	石山寺	国（建造物） 国（絵画） 他	日本を代表する古典文学『源氏物語』は、石山寺に参詣した紫式部が十五夜の月が琵琶湖に映える姿を見て「もののあわれ」を主題とする物語に着想したと伝えられている。琵琶湖と水が持つ神秘的な力を現す景観として、芸術的な空間としての景観として、心像を現す景観として、みずとくらしの文化の一つの形として人々の中で息づいている。	大津市
1-6	うきみどう まんげつじ 浮御堂（満月寺）	国重文（彫刻） 国登録記念物 （名勝）	平安時代に源信が、比叡山から眺める毎夜光る琵琶湖を怪しみ、網ですくうそとそれは黄金の阿弥陀仏であったことから、その供養として1000体の仏像を彫り、琵琶湖の突き出た湖中に建立し納めた。湖上安全と人々の衆生救済にあたったという水に対する深い祈りの現れとして、今もその信仰が地域で守り伝えられている。	大津市
1-7	たけべたいしゃ 建部大社	国重文（彫刻、 工芸品） 未指定	近江一之宮として有名。祭神は日本武尊で、毎年行われる神輿の船渡御の船幸祭は、日本武尊が海路を渡った故事に基づくもので、瀬田	大津市

			川で琵琶湖と一体となった瀬田川の水の恵みに対する感謝の念が込められた水にまつわる祈りを現す祭。	
2-1	げんきゆうらくらくえん 玄宮楽々園	国名勝	池泉回遊式庭園。池は城下町の湧水を外堀からサイフォンの原理により導水し、小島の岩間から水を落として滝に仕立てるなど、水を巧みに取り入れた芸術的な景観。日本を代表する大名庭園。	彦根市
2-2	きゆうひこねはんまつばらしもやしき 旧彦根藩松原下屋敷 (お浜御殿) 庭園	国名勝	池泉回遊式庭園。池の水は、琵琶湖の水位と連動して波打ちぎわが変化する汐入方式。淡水を利用した汐入形式の庭園は日本で唯一である。 州浜と築山で構成された景観は、水と調和した精神を示す。	彦根市
2-3	彦根城跡	国特史 国宝 国重文	琵琶湖や内湖から引かれた城の堀は、城下町への物資の輸送路としても利用された。その痕跡は、堀沿いの船着き場跡や、船町という地名、船頭や漕ぎ手（かこ）の屋敷などに見ることができる。今日でも屋形船が観光客で賑わうなど、堀は市民の憩いの景観の一部となっている。	彦根市
3-1	おうみはちまん すいごう 近江八幡の水郷	重要文化的景観	琵琶湖の内湖で培われた和の情緒豊かな景観。漁業やヨシ産業等、周辺に暮らす人々との共生の中で、景観の維持と再生が繰り返されている。重要文化的景観第1号。ラムサール条約による保護湿地。	近江八幡市
3-2	おきしま 沖島	未指定	琵琶湖最大の島。淡水湖中の島で今も漁業で生業をしているのは、日本でここだけ。捕った魚は、独特な	近江八幡市

			漁法により収穫された魚たちは、伝統的な湖国の食文化として今も引き継がれている。湖中の島におけるくらし文化の代表として見ることができ、島の生活様式が全て重要な文化遺産。	
3-3	いさきじ 伊崎寺	未指定	琵琶湖の先端に張り出した竿の上から水に飛び込む荒行が有名。水の信仰と深く結びついた寺として、近年、観光地や映画のロケ地として有名になっている。	近江八幡市
3-4	ちやうめいじ 長命寺	重文、県指定、 未指定	湖を見下ろす景勝地に築かれており、中世以来今も秘仏の薬師如来像が祀られ、不動の滝など水の浄土信仰心・祈りを表す地として多くの人が訪れる。	近江八幡市
4-1	しらひげじんじゃ 白鬚神社	国重文（建造物）	「琵琶湖の湖水が蘆原になるのを七度見た、六万歳もの間、比良に住んでいた」という神を祀る。湖中に建つ大鳥居は、その姿から「近江の厳島」と呼ばれ、琵琶湖の航海を司っている。その情景は、松尾芭蕉や与謝野晶子の詩歌にも詠まれるなど、今でも多くの人々を魅了している。	高島市
4-2	たかしまし 高島市 かいづ 海津・にしはま 西浜・知内の 水辺景観	国文景	琵琶湖をはじめとする河川や内湖、湖岸の石積や共同井戸、漁港や砂浜の周辺など、古くから続いてきた「水」と共に生きる暮らしが今でも息づいている。	高島市
4-3	高島市 はりえ 針江・しもふり 霜降の 水辺景観	国文景	安曇川の伏流水と比良山系からの地下水を起源とする湧水が集落の各所自噴しみられる。これらを飲料水、生活水として利用するための「カバタ」が現在も暮らしの中で使われるなど、生活に密着したエコな水循環利用システムが形成されている集落を見ることができる。	高島市

4-4	おおみぞ 大溝の水辺景観	国文景	大溝城跡と旧城下町地域は、分部氏による町並み整備が行われ、山や井戸から取水する古式水道や水路は、今も住民に利用されている。内湖の乙女ヶ池は「水城」であった大溝城の往時の景観を今に伝えており、湖や池の水との暮らしが長年営まれてきた。	高島市
4-5	シコブチ信仰	未指定	市西部には、奈良や京の都に建築用材を伐り出す杣山が広がっていた。木材を水上輸送する筏乗りは、川の魔物から守ってくれる「シコブチ神」を信仰し、祠や社のほか「シコブチ講」として大切に受け継いできた。その分布は安曇川流域とその源流に限られており、「水」に対する独自の地域信仰である。	高島市
5-1	いば 伊庭の水辺景観	未指定	集落内に川からひいた水が張り巡らされ、豊かな水量と清らかな水質が内湖と繋がり、人々の生活を今も支えており、人々の生活が水とともにあったことも実感できる。	東近江市
5-2	ごかしょうこんどう 五個荘金堂 重要伝統的 建造物群保存地区	重伝建	近江商人の本宅と農家住宅が一体となった歴史的な街並みが残り、集落内には今もカワトを設けた美しい水路が流れている。	東近江市
5-3	永源寺と奥永源寺の 山村景観	国重文(彫刻・絵画・書籍・工芸)、 国史跡、県指定(書籍・建造物・有形民俗)市指定(彫刻・工芸・書籍・建造物)、 市指定名勝、未	永源寺は愛知川の深い水で育てられた紅葉の名所として有名。僧は、溪谷から流れる清流の音を禅の修業にいかしたといわれている。境内には、「洗耳水(せんじすい)」という水があり、人々は耳の俗界のアカを水で洗い清めてから寺に向かう。奥永源寺は鈴鹿山系を源に持つ琵琶	東近江市

		選定(景観)	湖の水源愛知川水系にある山村景観で、遠く深い谷底から引込こまれ共同水道を生活に利用。また、豊かな水源が育てた良質な樹木は木地生産を生み、全国に広めた。	
6-1	さめがいにしゆく 醒井宿	未指定 国天 国登録有形（建造物） 国登録有形（建造物） 市有形（建造物） 市有形	霊仙山の水神と参詣者の仏縁を結んでいたという伝説があり、山の湧水を水源とする地藏川に沿って形成された中山道の宿場町。江戸時代に醒井宿を通過する大名や役人に人速や馬を提供した施設が今も残り、完全な形で復元されている。前を地藏川が流れ、歴史と清流を楽しめる町並みと梅花藻などの自然が融和し、多くの文化財が散在して景観を創出する。清水でヤマトタケルが傷を癒した「居醒泉」(いざめのいずみ)伝説、西行が旅の途中に水を飲み子を宿らせた伝説など神話ゆかりの地。	米原市
6-2	いぶきやませいろくちいき 伊吹山西麓地域	国史跡 国天	伊吹山には水の神が棲まうとされ、古代から崇敬されてきた。ヤマトタケルを撃退した伊吹山の神を大蛇である水の神として祀り、奈良時代以降にはこの神の力を得るために修験者が山中で滝行を行い、各尾根には広大な寺院が造営された。伊吹山から流れ出る水は、今も脈々と人々の生活を支えており、水の大切さを知る伊吹山西麓の人々は、伊吹山を水信仰の対象としている。この地に広く分布する雨乞いの祭礼（太鼓踊り）は伊吹山に対する祭礼で、その起源は室町時代後期にまで遡ることができる。伊吹山頂の弥勒堂の前ではたいまつを集めて火をつけ、雷踊りを踊る。火の勢いで気流を起こして雨を呼び、激しく鉦	米原市

			や太鼓を打ち鳴らすことで、雷神を錯覚させ雨を呼ぶ。伊吹山は今も水の神が棲む山として信仰され続けている。	
6-3	ひがしくさの 東草野の山村景観	国重文景	伊吹山から流れ出て琵琶湖辺を育む姉川の源流にある山村集落で、関西屈指の豪雪地である。流れ下る水を栗箕で受け止め、満水の重さを利用して米を杵で搗く唐臼小屋や、山麓の湧水から集落内に引き込んだ水路にイケやマスを設けた水利施設などに、この地域ならではの特徴的な水利用を見ることができる。	米原市
6-4	あさひほうねんたいこおどり 朝日豊年太鼓踊 お よび伊吹山麓の太鼓 踊 と奉納神社	国選択無形 県選択無形 市指定	水を司り、幾本もの大河の水源である伊吹山に対し、周辺の村々では現在でも9カ所で雨乞い御礼の太鼓踊りが山に向かって奉納されている。水掛かりの悪い扇状地で暮らす人々の水利の源への祈りと感謝の姿が今も引き継がれている。	米原市
7	琵琶湖の伝統漁法 (ヤナ・オイサデ・エリ漁) と食文化	未指定 (伝統漁法) 県選択無形民俗 (滋賀の食文化財)	古来より琵琶湖および河口では、ヤナやエリ、オイサデ漁などによる漁法が行われ、今でも伝統漁法として営まれている。特に安曇川のヤナ漁は「安曇河御厨」としてその起源が平安時代遡るなど、千年以上前の漁業景観を今に伝える。水の恵みである食材は、湖魚のなれずし、湖魚の佃煮、アメノイオ御飯など、地域のくらしや伝統行事に深く関わりをもち、県の物産としても愛されている。	大津市・ 彦根市・ 近江八幡市・ 高島市・ 東近江市・ 米原市・

8-1	竹生島	名勝史跡 国宝(建造物) 重要文化財(建造物) 県指定(天然記念物)	戦国時代に豊臣秀吉が寄進した都久夫須麻神社本殿と宝厳寺唐門や、日本三弁天で知られ、日本で最初に弁財天信仰が根付いた地と言われる。この地に、初めて寺を開いたのは、奈良時代の僧行基で、平安末期には、西国三十三所の巡礼が風習化し、室町時代までには三十番札所となった。古来より、浅井姫命が鎮座し、水神として崇められ、付近を通る船の安全航行を守る神として地域に根付き、今でも琵琶湖に浮かぶパワースポットの島として、内外から多くの人が訪れている。	長浜市
8-2	菅浦の湖岸集落	重要文化的景観	奥琵琶の急峻な湖岸地形に形成された独自の集落構造を示す菅浦は、万葉集にも詠まれた。古くから湖上交通の重要な港として知られる。中世の「惣」に遡る強固な共同組織によって維持されてきた湖岸集落からは、古くから続く水辺の暮らしが今も息づいている。	長浜市

構成文化財の写真一覧

1. 大津市

1-1 延暦寺根本中堂



1-2 園城寺 (三井寺)



1-3 日吉大社 (山王祭)



1-4 西教寺



1-5 石山寺



1-6 浮御堂 (満月寺)



1-7 建部大社



2. 彦根市

2-1 玄宮楽々園



2-2 旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園



2-3 彦根城



3. 近江八幡市

3-1 近江八幡の水郷



3-2 沖島



3-3 伊崎寺



3-4 長命寺



4. 高島市

4-1 白鬚神社



4-2 高島市海津・西浜・知内の水辺景観



4-3 高島市針江・霜降の水辺景観



4-4 大溝の水辺景観



4-5 シコブチ信仰



5. 東近江市

5-1 伊庭の水辺景観



5-2 五個荘金堂伝統的建造物群保存地区



5-3 永源寺と奥永源寺の山村景観



6. 米原市

6-1 醒井宿



6-2 伊吹山西麓地域



6-3 東草野の山村景観



6-4 朝日豊年太鼓踊および伊吹山麓の太鼓踊と奉納神社



7 琵琶湖の伝統漁法と食文化

オイサデ漁



ヤナ漁



エリ漁



フナズシ



湖魚料理



8 長浜市

8-1 竹生島



8-2 菅浦の湖岸集落

